

REPORT:

展覧会委員会

JPDA創立50周年記念展覧会

生まれて400年～30年 今も生き続ける「日本のロングセラー商品展」

(併設：パッケージデザインの勘ドコロ)

【担当理事】加藤芳夫／奥田一明

【担当委員】東日本：有澤眞太郎／伊藤 透／牛島志津子／大住裕一／小川裕子／國吉英二郎／田中健一／二宮昌世／坂東陽子／本田和男／武舎奈穂／矢澤孝嗣

西日本：橋原コシハル／広谷龍児／池田 毅／菊地 満／栗本雅弘／高木理恵／高橋智之／富山美紀／中村尚史／馬場良人／三河内英樹／米虫寿美／山内理恵

開催日時	平成23年8月20日（土）～11月6日（日）
開催場所	印刷博物館 P&Pギャラリー
来場者	レセプション 117名（受付した人のみ） 展覧会入場者 9,864名（145名／1日平均は最高記録）

ワークショップ1 「日本酒を折り紙で包んで贈ろう」

開催日時	平成23年10月10日（月）
講師	山口信博 氏
受講者数	10名

トークショー 「ロングセラー商品の勘ドコロ」

開催日時	平成23年10月22日（土）
講師	佐藤 卓 氏、伊藤 透 氏、加藤芳夫 氏
受講者数	80名

ワークショップ2 「パッケージデザインってなんだろう」「記憶のお絵かき（ドラえもん等）」

開催日時	平成23年10月30日（日）
講師	加藤芳夫 氏
受講者数	50名

今回のロングセラー展は、日本の商品の歩みを改めて振り返ってみようという思いから企画され、新聞・雑誌・TV等の多数の取材があり、開催中の入場者もP&Pギャラリー過去最高の9,864名となり、商品と生活文化・歴史観等のパッケージを見ながら会話をしている見学者が多く見られた。

人々の生活や経済、技術へ密接に関わることから「生活に最も近いデザイン」と称されるパッケージデザイン。いつの時代も人々の発想力や感性を鏡のように投影する存在。生活の中で使われ、愛され続けてきた商品は、それぞれの思い出と共に記憶の中に刻み込まれているだけでなく、生活や文化、社会のトレンドや経済状況、包材や内容物に関わるあらゆる技術を反映しています。

展覧会会場では、1597年に製造開始された宇津救命丸を始め、1602年の養命酒、1899年のヤマト糊、1902年の金鳥蚊取り線香など100年以上前から長く愛され続けている商品も展示され、一般的に商品ブランドの寿命が30年と言われている中から、会場に並べられた309品目の商品は、激戦を勝ち抜いてきた成功例と言っても過言ではない。また、創立50周年記念にあたり、日本のパッケージデザインを代表する定番商品・定番ブランドのロングセラーパッケージ、時代・流行を切り取った斬新なパッケージなど、123商品のデザインを紹介した「パッケージデザインの勘ドコロ」を平成23年9月に発刊。併せて、「日本のロングセラー商品展」において書籍の内容をパネル展示した。

印刷博物館開催後は、富山大学において3月26日（月）～4月20日（金）まで、関門海峡ミュージアムにおいて4月1日（日）～5月6日（日）まで展覧会が開催予定です。さらに、国際交流基金からは、海外での展示が計画されている旨の連絡が入っています。

社団法人パッケージデザイン協会50周年記念事業に相応しい企画が実現できたのは、出品を了解くださいました各企業様、印刷博物館様、学芸員様、凸版印刷株式会社様、展覧会委員等の多くの協力があったことを記して報告いたします。

最後に、印刷博物館様の記録によりますと

- 自社製品撮影のために来館・取材された方は18社
- 「パッケージデザインの勘ドコロ」の販売数：272冊
- 小石川ビルに来た目的：ロングセラー展見学のため 73%
- 来場者の男女比：女性 56% 男性 44%
- 展示を見ての感想：
満足 56% まあまあ良かった 34%（合計 90%）

